



東北小だより

～学校教育目標～
なかよく元気な子
よく考える子
すすんで働く子

開校56年目

新座市北野3-1-1 Tel 048-471-2022
HP <https://e-tohoku-c-niiza.edumap.jp/>

令和6年度11月号
全児童数 818名

学びの積み重ねを発表するとは

～ 笑顔いっぱい 歌声響く 東北小学校 ～

校長 齊藤 直之

先日の運動会では、保護者並びに地域の皆様方に参観いただき、無事運動会を開催することができました。天気も心配されましたが、暑さもなく最後の競技まで進行することができました。

ご協力いただきました保護者、地域の皆様に感謝申し上げます。

さて、参観いただきました皆様にとって、運動会の中でどのようなことが心に残ったのでしょうか。学校では、何事においても過程（プロセス）を大切にしています。当日だけ頑張るのではなく、その日に至るまでの日々の取組を大切にすることです。

今回は、運動会ですので、日々の体育授業の積み重ねとなります。

現在、子供たちが学校で学んでいる学習教科は、全て3つの観点で評価されています。体育という教科は、どうしても技ができるか、できないかに目が行きがちですが、他教科同様に3つの観点で学習を進め、評価を行います。その3つは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」となります。

今回の運動会の発表場面で、子供たちがその力を十分できたかどうかは、子供たちの成果を披露するとともに、適切に指導したかどうかといった教員の評価でもありません。笑顔で最後までやりきった場面が多く見られれば、教員もA評価となります。

技ができた、できないだけではなく、どういう動き方が良いのか自分で工夫したり、友達と協力して作戦を試行錯誤したりして、対戦に勝つといったことは、学校で学ぶ大きな意味ともいえます。また、一人だけでなく、時に友達と協力して運動に取り組むことに、学校体育のよさがあります。

苦手な種目に対しても前向きに、主体的に取り組む態度は、運動以外の場面でも必要な力となります。難しい問題でも粘り強く解いてみる。面倒くさいけれど、毎日音読に取り組むなど、多くの学習につながっている共通の生きる力となります。

運動が苦手な、運動会に後ろ向きな気持ちになってしまう子供がいるのは当然のことだと思います。しかし、だからといって逃げていては、成長は望めません。だからこそ、学校では、日々の体育授業から、「できた、できない」だけではない、工夫できたことを誉め、友達と一緒に運動することは楽しい、やってみよう、このような子供たちを育てていきたいと考えています。

もちろん、最高学年の6年生の発表が素晴らしかったのは、1年生からの積み重ねがあつてのことです。そうすると、来年度は、一つ上の学年の発表を観ていただくと、次なる指針が見えてきます。

子供たちの発表の場を陰で支えていただいた方々に、改めて感謝申し上げます。